

ハイデルベルク信仰問答より

問16 どうして、その方は、真にして義しい人でなければならないのですか。

答え なぜなら、神の義は罪を犯した人間が、罪に対して償うように要求しています（ローマ5:12, 15）が、自ら罪人である人間が、他の人に代わって罪の償いをすることはできないからです（1ペテロ3:18）。

ここで言われていることを理解するためには、二つの事柄を整理することが大切です。

- ①人間はどういう問題を抱えているか
- ②問題解決のために神が採られた手段

①人間はどういう問題を抱えているか

そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、--それというのも全人類が罪を犯したからです。（ローマ5:12）

ここで問題とされているのは「罪」と「死」という二つの事柄です。死は、人間存在に当然のごとく伴っているものであり、自分がやがて人生の終わりを迎えることを否定できる人は一人もいないでしょう。しかし、その事実を「喜ばしいこと」と捉えている人も、通常感覚ならばいいはずで。人は本能的に「死にたくない」「生きたい」と思う。愛する人が亡くなるときに感じる寂しさや空虚感は、本来望んでいない「別れ」という現実と直面しなくてはならないところからくるでしょう。人との別れを望まない私たち人間は、時に延命治療などを用いてその日を遅らせる努力をします。これらのことは、「死」が本来の人間の自然な状態ではないことを暗示しているようです。

聖書は、人間存在に「死」が入り込んだ原因をアダム（ひとりの人）に帰しています。禁じられていた木の実を食べたアダムの行為とは、本質的に「神と人との間で交わされた契約に対する違反」を意味していました。神はアダムの行動を99%制限されませんでした。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい」（創世2:16）とは、彼の人生に与えられた全面的自由を意味するでしょう。しかし、彼の行動には唯一の制限が設けられていました。「しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない」（創世2:17a）とは、アダムが神に聞き従う限りにおいて、両者の契約関係が保たれるという条件です。アダムが自分の人生の主が誰であることを忘れることなく、常に自分の前に神を置くため（詩篇16:8）であったのです。そして、神は契約違反に伴う罰則をも事前に呈示しておられました。「それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ」（創世2:17b）。この時点では、アダムには「死」とは何であるかすら十分に分かっていなかったかもしれませんが、りんごが落ちて腐っていく状態などを見ることにより、ある程度想像はできたと思います。

アダムは契約を破り、当然負わなくてはならない罰を身に受けることになりました。朽ちゆく存在となったのです。「死にたくない」「永遠に生きたい」とどんなに願っても、やがて訪れる人

生の終わりから逃れることはできなくなりました。老いや病によって、アダムはそのことを実感したのではないのでしょうか。アダムの違反は、彼に続く全人類に受け継がれ、人は皆死ぬべき存在として生まれてくるようになりました。聖書は「死」を「罪」と密接な事柄として説明しますので、「死ぬという結果に行き着く人間には罪がある」という反対側からの説明も可能です。そして、罪が神との契約違反から来るものであるとするならば、すべての人が何らかの違反行為を行ったことになるでしょう。パウロは誰にでも分かるように「良心」という事柄を取り上げます。

彼らはこのようにして、律法の命じる行いが彼らの心に書かれていることを示しています。彼らの良心もいっしょになってあかし、また、彼らの思いは互いに責め合ったり、また、弁明し合ったりしています。

(ローマ2:15)

良心に逆らう行動をとったことがない人はいないでしょう。良心が、「神が人に心に書き記した律法」であるなら、誰一人として神に自分を無罪だと主張することはできないはずで、死ぬという結果に至る私たちは、神との関係に何らかの問題を抱えているのです。

②問題解決のために神が採られた手段

しかし、神は罪ある人間を憎み、忌み嫌い、捨てることを願っているお方ではありません。神は世を愛しておられるのです(ヨハネ3:16)。罪の中でもがき苦しみ、死と戦いながらも飲み込まれていくほかにない人間をどうにか助け出したいと願い、一つの手を考え、実行に移してくださいました。

ただし、恵みには違反の場合とは違う点があります。もしひとりの違反によって多くの人が死んだとすれば、それにもまして、神の恵みとひとりのイエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ちあふれるのです。(ローマ5:15)

多くの人に「死」をもたらしたアダムとは反対に、多くの人に「いのち」を与えるアダム(イエス・キリスト)が世に送られたのです。主イエスは人間の一人となり、誰一人果たし得なかった神との契約を完全に全うしてくださいました。そして、ご自分の「義」を私たちに着せ、私たちが「義なる存在」として神の目に見えるようにしてくださったのです。主イエスは私たちの「兄弟」(神の家族の長兄)となって、私たちを神の許に連れて行ってくださいます。

それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかった。(ヘブル2:17)

私たちは肉体的には死ぬべき存在ではありますが、今やその意味は変わっています。主イエスを信じる者にとって「死」とは、主イエスと共に父なる神様の許(永遠の安息)へと入っていくための門となっているのです。